

介護職員自己評価表

2021年7月18日

事業所名	介護老人福祉施設 喜入の里
------	---------------

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	1人	
社会福祉士	2人	
あん摩マッサージ指圧師	1人	
看護師	3人	3人
介護福祉士	15人	2人
実務者・初任者研修	3人	

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	26.4%	35.9%	29.1%	8.6%	

前回の改善計画	認知症対象者に行う小集団での体操やちょっとした関わりに、経験の浅いスタッフは、関わり方に苦手意識を持っていた。主任とベテランスタッフを中心に教育方針を検討し、認知症に関する知識の習得とOJTにより支援法を学ぶ計画とした。主任やメンターと経験の浅いスタッフがチームを組み、支援に拒否が見られる入居者に関わり、問題を見える化することで課題を整理し、(1)興味や関心を探る、(2)五感を刺激する、(3)気分を転換させる教育方針とした。増加する病院連携に、気づきを高める取組みとしてバイタル管理を見直す計画とした。残存機能を活かした支援は、対象者の生活歴を踏まえて無理のない程度で実施した。参加意欲の低い入居者には気分に応じて促し、参加者を増やすことを目指した。
前回の改善計画に対する取組み結果	コロナ禍で面会が制限されていることから、ご家族への近況報告の一つとして、利用者の日頃の写真等をお届けし、ご家族が状態を把握してもらえ取組みを継続している。ご家族から暮らしぶりが見えて安心するといったご意見を頂いている。小集団の体操や口腔体操は、入所者の日課として定着し入居者の楽しみの一つになっている。意欲の高い入所者は進んで参加し、他の入居者の参加意欲を高めているだけでなく、スタッフのモチベーション向上につながっている。一方、今年新卒で入社したスタッフや経験の浅いスタッフでは、レクリエーションに苦手意識を持つ傾向があり、外部講師による講義と、AIによる表情解析に基づいた心理療法を実施し、感情分析により算出された気分指数を活かして支援方針を検討している。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)	よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1 対象者の接し方や態度について	30.0%	40.0%	25.0%	5.0%	100%
SECTION 2 仕事上の態度について	25.0%	35.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 3 食事について	25.0%	40.0%	25.0%	10.0%	100%
SECTION 4 移乗や移動について	25.0%	35.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 5 排泄について	25.0%	35.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 6 入浴について	35.0%	25.0%	35.0%	5.0%	100%
SECTION 7 着替えや整容について	25.0%	35.0%	30.0%	10.0%	100%
SECTION 8 服薬について	30.0%	35.0%	25.0%	10.0%	100%
SECTION 9 意思疎通について	30.0%	25.0%	40.0%	5.0%	100%
SECTION 10 行動障害について	20.0%	50.0%	20.0%	10.0%	100%
SECTION 11 普通の生活やアクティビティについて	20.0%	40.0%	30.0%	10.0%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	認知症ケアへの取組みとして、外部講師による認知症の心理的理解と事例検討により知見を深め、臨床調査を含め10か月を要するミッケルアート回想療法士一級の研修等によりスキルアップを図った。AIによる心理療法を導入し経験の浅いスタッフでも取組める仕組みを目指したものの、小グループや個別対応が問われるケースも多く、入所者の意欲や気分に合わせて対応が課題となった。施設の雰囲気を向上させる取組みとして声掛けの機会を増やした。これらの取組みを行っても認知症ケアに苦手意識を持つスタッフがあり、メンターや主任等と一緒に関わり助言と指導を行った。新人教育は、メンターが中心になり行い、メンター同士が新人スタッフの教育状況について定期的にミーティングし、習得状況の検討や進捗の確認や調整を行った。これらはメンターの意識改革につながり、職場の雰囲気を明るくした一方、教育の進み具合に差が生じ、焦りを感じているメンターがみられ、新人スタッフだけでなくメンターの負担軽減に、主任によるスーパービジョンの頻度を高める必要があった。
----------------	--

主任 水枝谷 芳文

外部評価者	コロナ禍で家族の面会が制限されるなか、写真を活用して施設の日常を伝え、利用者や家族の不安を解消していました。導入されたオンライン面会を評価する意見もありましたが、直接会えない期間が長いだけに、家族面談を検討する必要があります。面会を希望される家族はワクチンを接種された方が少なく、感染リスクの解消とは言い難い状況ですが、家族の理解が基本であることに十分配慮し、しっかりとした説明を行ってください。認知症ケアは、生活歴を踏まえた積極的な関わりで入所者の不安軽減に努めていました。補助的な支援として、ミッケルアート回想療法のほかに、表情をAI解析した心理療法を導入し、認知症ケアに苦手意識を持つ経験の浅い介護職員が関わっていました。風景、動物などの動画を用いた心理療法と、音楽療法を組み合わせ介入できるのは、生活歴だけでは見えてこない入居者の新たな一面を発掘できるかもしれません。新人教育は、それぞれのメンターが教育の進捗状況を検討し指導内容を調整していました。一方、理解度は多少の差が生じるのは自然な事です。メンターが感じている焦りに主任等が関わり指導するなど、メンターへのサポートを検討すべきです。教育は、一人ひとりに合わせた指導が問われるだけに、目標を捉えるだけでなく、習得状況に合わせた指導が求められます。経験の浅い介護職員だけでなくメンターに対するスーパービジョンを高頻度で行うことをお勧めします。総合的な評価は、様々な取り組みが実践されていることが推察されました。今後も地域に根差した事業所として頑張ってください。
-------	---

〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目37-302
 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所
 博士(社会福祉学) 岩崎 房子